

冴える冷間鍛造の加工技術



株式会社三ナミダ

自社技術を駆使して 飛躍的な軽量化を実現

「軽いdeボルト」。特殊冷間鍛造部品メーカー、三ナミダは自社技術を駆使して開発したボルトに、こんな名前をつけて顧客に提案している。高い強度を保ちつつ、内部を空洞にして飛躍的な軽量化を図り、省エネ・省資源もねらった部品だ。従来製品に比べて実に約40%も軽くできるといふ。

三ナミダは、創業以来の超ロングボルト、超ロングナットをはじめ、中空ボルト、チタンボルト、異型鍛造品等多様な部品を製造してきた。用途分野も自動車関連、電力通信、弱電・IT関連等と多岐にわたる。

主力は売り上げ70%強を占める自動車関連。ラック、ピストン、EASTOPパー、ヒオンギア等、シートベルト部品だけで20数種類におよぶ。ボディ回り部品も2、300種類をこなす。同社製のサブフレームカラーナットは、自動車の足回りに組み込まれ、世界中を走り回っている。最盛時は月35万本も製造したという。

「標準品はほとんど扱いません。お客様のニーズに合わせてオーダーメイドで加工するのが当社の特長。量産から小ロットまで手がけています」と南田豊司社長は話す。

多様な加工機で より精密で高度な加工を

同社の主な技術特長は、①加工技術に冷間鍛造を採用していること。熱間鍛造と違い、温度変化による歪みが起こらず、鍛造後の仕上げ加工も不要になる。25年の実績を積んでいる技術なのだ。また、②300〜400mmもある長尺のボルト製造が得意、③素材に押し出し加工を施し、中空化する深穴加工を確立していること、④構造の徹底した工夫等で軽量化を図っていること等がある。

八尾市内の2工場に加え、平成3年には大分空港から約30分の場所に大分工場（大分県国東市）を建設、長尺ものを加工する大型鍛造機等多様な加工機を揃えている。今年も新鋭の圧造加重1000tの大型圧造機や700tの大型鍛造プレス等を配備。南田社長自身、「中小企業としては揃えすぎかもしれない

いですね」と苦笑するほどだ。

昭和8年に長尺釘メーカーとしてスタートし、昨年、創業75周年を迎えた。大学卒業後、商社に勤務していた南田社長は、先代社長である父の病氣、急逝のため、27歳の若さで経営のかじ取りをまかされ、事業を拡大してきた。そして平成20年、「大阪ものづくり優良企業賞」を受賞。「顧客の厳しくなる品質、納期の要求に対応できるよう、より精密で高度な冷間鍛造加工を目指していきます」と新規分野へも挑んでいる。

主な事業内容

自動車・建築・弱電・IT向け電力通信向け超ロング・軽量化・特殊な型・高さ調整ボルト、ナット、異型部品の製造・販売等



南田豊司さん
代表取締役

Company Profile

株式会社 三ナミダ

住所 / 〒581-0851
大阪府八尾市上尾町5-20-1
創業 / 昭和8年4月
設立 / 昭和28年12月
資本金 / 2,000万円
従業員 / 117名 (平成21年1月現在)
TEL / 072-998-6314
FAX / 072-999-9433

ISO 9001
ISO 14001

<http://www.minamida.co.jp>